

令和 6 年 6 月 27 日現在

機関番号：44604

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K02928

研究課題名(和文) 異文化コミュニケーションを促す日本の伝統・文化のオラリティ理解教育のエデュポート

研究課題名(英文) EDU-port for Promote Cross-cultural Communication through Understanding of Orality Education of Japanese Tradition and Culture

研究代表者

畑野 裕子 (Hatano, Yuko)

奈良佐保短期大学・その他部局等・教授

研究者番号：80167585

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：「日本の伝統・文化」に関する異文化コミュニケーションは、従来のオラリティに加えて身体性が加わると、より効果的であると思われる。本研究の目的は、このような教育モデルの開発を試みることである。まず、「日本の伝統・文化」等に関する文献資料を検討した。そして、「日本の伝統・文化」のオラリティとして、言語表現である俳句が、Haikuとして国際的に広がっていることが明らかになった。そこで、著名な俳句を取り上げ、研究代表者自らが舞踊のパフォーマンス(身体表現)として創作に取り組み、プログラムを世界に発信(エデュポート)することを目指して、検討を試みた。本研究成果は、学会発表等により公表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年のグローバル化への社会的なニーズや教育改革の展望を背景に、日本の伝統・文化を世界に発信する教育は、喫緊の課題である。本研究の学術的意義や社会的意義は、このような課題を解決するために、異文化コミュニケーションにおいて、世界に発信(エデュポート)できるような「日本の伝統・文化」に関して、言語だけではなく、「オラリティ(身体性)」に着目し、検討を試みたことである。このような観点に基づく研究はほとんどみられず、今後の研究発展の基礎資料となることが期待される。

研究成果の概要(英文)：It is assumed that cross-cultural communication of Japanese tradition and culture is more effectively promoted through embodiment in addition to conventional orality. The purpose of this study is to develop educational models. Documents concerning Japanese tradition and culture were extensively reviewed, and it was found that haiku (linguistic expression), a type of Japanese seventeen-syllable poem, is recognized as an orality of Japanese tradition culture worldwide. The author selected a well-known haiku to create a dance performance (bodily expression) and explored a program with the aim of introducing the program overseas (EDU-port). The results of the study have been published and also presented at academic meetings.

研究分野：教科教育学

キーワード：異文化コミュニケーション 日本の伝統・文化 オラリティ 身体性

1. 研究開始当初の背景

我が国では、これまでグローバル化が進んだ社会的なニーズを背景に、様々な国際理解を深めるための教育改革が行われてきた。しかし、これまでの語学教育や言語を主体としたリテラシー偏重の国際理解教育における、異文化コミュニケーション能力習得のための効果的教育手法については、一度立ち止まって再検討すべき時期が来ていると考えられる。すなわち、今後ますます増加する異文化交流において、コミュニケーション手段は言語に偏重した従来の方法だけで十分なのか、他のコミュニケーション手段には、どのようなことが考えられるのか、特にしぐさや身振り、表情など身体的表現による相互作用がオラリティ(言葉)による異文化理解をさらに深化させる可能性はどうか、というような、これまで未検討であった全く新しい視点からの学術的な問いがあげられる。本稿では、このような身体性を加味したオラリティのことを、「オラリティ(身体性)」と表記する。さらに、オラリティに関しては、近年の科学技術研究費の特設分野研究として(オラリティと社会：平成31年度迄)クローズアップされている。そこで、これまで殆んど未開拓の「日本の伝統・文化」のオラリティ(身体性)に関する教育プログラムの開発を目指し、グローバルに発信(海外展開推進・エデュポート)する基礎資料を提供することは、時宜を得たテーマであると考え、本研究に着手することとした。

2. 研究の目的

本研究は、これまで未開拓であった「日本の伝統・文化」に関するオラリティ(身体性)に着目し、異文化交流において、リテラシーのみに偏重せず、オラリティ(身体性)を活かした、より効果的なコミュニケーションを促す日本の教育モデルの基礎を構築しようという試みである。そして、実際に異文化コミュニケーションの促進に役立つようなプログラムを試作し、海外へ発信(エデュポート)できるようなプログラムとしての有用性を検討することを目的とした。

3. 研究の方法

まず、「日本の伝統・文化」、「文化理解」、「オラリティ」、「身体性」や「表現」などのキーワードを中心に、国際理解教育に関する研究について、CiNiiなどのデータベースを用い、研究論文などの資料収集を行ない、それらの内容に関して個別に文献的検討を実施した。

次に、それらの結果を踏まえた上で総合的に検討し、「日本の伝統・文化」の中でも特徴的なコンテンツに着目することとした。具体的には、「日本の伝統・文化」の中でも、言語表現としての俳句が、Haikuとして国際的に広がっていることが明らかになった。

そこで、国際理解教育におけるエデュポートを視野に、「日本の伝統・文化」のオラリティ・言語表現として、著名な俳句を取り上げ、その俳句に関する文献的検討を実施した。そして、研究代表者自らが、その俳句の表現内容について、自身のダンス・舞踊経験を基に、舞踊のパフォーマンス(身体表現)として創作に取り組んだ。さらに、プログラム案の作成を目指して、その俳句の舞踊のパフォーマンスを提示し、言語表現や身体表現を専門とする教員へインタビューを試み、プログラムとしての有用性を検討した。

4. 研究成果

(1) 文献的検討

まず、これまでの研究の課題などを明らかにするために、先行研究の検討を実施した。具体的には、「日本の伝統・文化」、「文化理解」、「オラリティ」、「身体」や「表現」などに関連する研究を中心に、CiNiiなどのデータベースを用い、研究論文などの資料の収集をフリーワード検索によって行なった。検索では、論文において「日本の伝統・文化」、「文化理解」、「オラリティ」、「身体」や「表現」などキーワードで登録されているものの、タイトルそのものに含まれているとは限らないため、それらの収集した研究資料または関連資料の全てについて、個別に内容を検討した。

その結果、「日本の伝統・文化」に関する研究を概観すると、様々な「日本の伝統文化」の内容に対して、数多く報告されており、「日本の伝統文化」が415件、「日本の伝統・文化」が54件であった(以下、件数に関しては、研究データ・論文・本・博士論文・プロジェクトの全てを含み、最新2024年6月16日時点での結果を示している)。しかし、「身体」を観点に加えると、数少なく、「日本の伝統文化」かつ「身体」が10件、「日本の伝統・文化」かつ「身体」が4件であった。また、「表現」を観点に加えても、多くはなかった(「日本の伝統文化」「表現」が30件(美術・工芸、音楽、環境・理科、数学、英語、茶の湯、和装、詠歌、狂言、体育・武道デジタル事典など)、「日本の伝統・文化」「表現」は2件(家庭科、身体表現))。

なお、「文化理解」に関しては、語学に関連する報告をはじめとして、様々な分野から報告がなされており、数多い(349件)が、「日本の伝統文化」や「日本の伝統・文化」の観点を加えると、ほとんどみられない(「日本の伝統文化」「文化理解」1件のみ)。また、「オラリティ」に関しても、様々な分野から報告(181件)がなされているが、「表現」の観点を加えると、数少なく(12件)、主にリテラシーの内容である。

一方、今回のキーワード検索における直接的な結果ではないが、「日本の伝統文化」、「身体」

と「表現」に関わる「踊り」に関連するグローバルな文化現象として、「よさこい系の祭り」や「YOSAKOI ソーラン系の祭り」における「踊り」があげられる。これらは、それぞれの開催時期に、テレビ・ラジオのニュースや新聞などのマスメディアによって報道されるだけでなく、近年はインターネットの普及によって、日本国内だけでなく世界にも発信されている。そして、「よさこい系の祭り」や「YOSAKOI ソーラン系の祭り」が、「日本の伝統文化」として紹介されることが多い。しかし、筆者は、それらの「踊り」の音楽・衣装・動作から、「日本の伝統文化」というよりはむしろ、それらのエッセンスを取り入れた「日本の現代的文化」と捉えている。それらに関しては、人文地理学(内田, 2013, 2018)、文化人類学・民俗学(長谷川, 2006、矢島, 2015)、舞踊学(増山, 1999、平田, 2010、Kuyama & Hatano, 2020)、教科教育学(松尾, 2006)など様々な学問的な立場から報告されており、表現や身体性(岩村, 2015)の観点からも興味深い。なお、これら「よさこい系の祭り」や「YOSAKOI ソーラン系の祭り」に関する研究の詳細は、『よさこい系および YOSAKOI ソーラン系の祭りや踊り』の研究動向に関する一考察 CiNii 掲載論文を中心に」としてまとめた(畑野, 2021)。

さらに、「身体」と「表現」に関連して、グローバルな日本文化をみると、一般的に知られている伝統芸能である能、狂言、歌舞伎、日本舞踊などに加えて、現代の日本発祥の身体表現として前衛的な Butoh (舞踏)があげられる。Butoh は、西洋的な「身体表現」技法とは異なるコンセプトである。この観点からみると、そのひとつに野口体操があげられ、羽鳥(2003)は自らの実践に基づいて言及している。しかしながら、教育現場における野口体操の実践は、三上(1999)らの報告がみられるものの、数少ないようである。このような背景を基に、筆者は、これまでに、野口体操に関する貴重な実践資料(野口三千三氏に師事した指導者による授業)の提供を受けたため、追加的分析を試み、報告した(Hatano, 2020、畑野・大竹・滝口, 2021)。

ここで、前述の「日本の伝統文化」「表現」(30件)の報告に戻ると、その中でも言語表現と他教科との融合として、溝邊らのプロジェクト(2014)は、興味深い。研究の目的を「自然の事物・現象を表す日本の伝統的な表現を取り入れた理科授業モデルの開発を行うこと」とし、「実践では、言葉集めや命名活動、短歌・俳句づくり、クイズ形式の発表などの工夫が見られる」と報告している。このことから、和文化融合型モデルにおいて、短歌・俳句づくりという言語表現に基づく活動との発展性を示唆していると思われる。

そこで、短歌・俳句に関して概観してみると、近年教育テレビのプログラム以外にも、エンターテインメント的な番組の一部として専門家による指導を含めた、現代の俳句づくりが注目されている。「俳句」という言語表現は、このように社会現象として反映されているほど、学校教育以外でも盛んとなっている。一方、学校教育に関連してみると「俳句甲子園」(全国高等学校俳句選手権大会)という全国的なイベントも、2024年まで27回と歴史を重ねている。授業実践の研究においても、中西(2005)は、コミュニケーション媒体の視点から俳句の指導法の開発を試みている。さらに、北米におけるハイクワークショップの有用性(2014)をはじめとして、国際的な視座を示唆している。

このような背景から、「日本の伝統・文化」の中でも「俳句」に着目し、「俳句」をキーワードとしてCiNiiの文献検索を行ってみると、その結果も数多い(研究データ61件、論文35695件、本7766件、博士論文36件、プロジェクト176件、全43734件)。その中でも、プロジェクトをみると、俳句を対象として、アメリカの英語詩・英語俳句をはじめとして、カナダ、ブラジル、アルゼンチンなどの北・南米、スペイン、フランスなどのヨーロッパ、台湾、中国、ベトナムなどのアジアに関連する研究がみられ、言語表現としての俳句が、Haikuとしてグローバルに普及していることが明らかになった。歴史的には、Noguchi(1914)のThe Spirit of Japanese Poetryに遡る。また、学校教育現場においても、先の中西は、国際交流の実りをめざして、海外でのプロジェクトとしてもまとめている(中西, 2017、中西, 2024)。

以上のような総合的な検討を基に、本研究では、「日本の伝統・文化」の中でも特徴的なコンテンツとして俳句(Haiku)に着目することとした。

(2) 俳句(Haiku)

本研究における俳句(Haiku)の扱いについては限定的であり、次のように想定している。まず、本研究は、俳句そのものに関する研究や、授業における俳句づくりを意図した内容ではないことがベースになっている。新たな研究分野の第一歩として、「日本の伝統・文化」の中でも、言語表現としての俳句が、「文化理解」や「オラリティ」(身体性)などに関わる教育コンテンツ開発の素材となるよう、既成の俳句をベースに設定している。

しかしながら、具体的に取り上げる俳句については、日本だけでなく海外でも広く知られている代表的なコンテンツを取り上げる必要あると思われる。そこで、俳聖として世界的に知られる俳諧師の松尾芭蕉に着目することとし、松尾芭蕉やその作品に関する正岡子規の解釈(松井, 1972)、その他文献資料(雲英・勝明, 2010)などの検討を試みた。

これら文献資料の中でも、総合的に判断して、「古池や蛙飛びこむ水の音」の句を取り上げることにした。この句は、芭蕉風(蕉風)俳諧を象徴する、中でも代表作とされる句であり、俳句にあまり詳しくない人でも、おそらく聞いたことがあると思われるからである。また、この句は、日本語だけでなく、海外でも様々な言語に訳されているからである(Noguchi, 1914)。

一般的な句の解釈は、荒れ果てた庭園で古池を見つけ、その静かな古池に蛙が飛び込み、その飛び込んだ音が響いて、あたりの静けさを破るほど静寂が広がっているというような情景と思

われる。芭蕉全句集にあっても、「訳：静かに水をたたえた古池に、蛙の飛び込む水音がする」とある。また、「芭蕉自身の理解が変化したことも指摘される。幽玄・閑寂の趣を看取する説も古くからあり、一句受容の研究も進んでいる」と記されている。このことは、歴史的には、芭蕉の弟子であった支考の「葛の松原」(1692)に遡る。発句として、芭蕉が蕉風俳諧を確立した句とされており(長谷川, 2005) 芭蕉の作品の中で最もポピュラーである。

以上を踏まえ、本稿において取り上げる俳句を芭蕉の「古池や蛙飛びこむ水の音」の句とした。また、本稿において、この句の表現内容を一般的で情景的な解釈とした。

(3) 俳句の舞踊のパフォーマンス

本研究者は、「古池・・・」の句を、「静かに水をたたえた古池に、蛙の飛び込む水音がする」という表現内容で、舞踊のパフォーマンスとして創作に取り組むこととした。なお、この創作は、あくまで学校教育における実践プログラムのための試案であり、専門家による舞台芸術とは異なるものと想定した。

まず、舞踊のパフォーマンス以外の場面設定や衣装に関して総合的に検討し、次のように設定した。舞踊のパフォーマンス空間としては、日本の伝統建築をイメージ出来るような床の間のある和室で、本研究自ら実演することとした。なお、衣装は、一般的な池の水をイメージした水色の浴衣とした。

次に、舞踊のパフォーマンス(身体表現)は、基本的に、日本の古典芸能における特徴的な要素を取り入れるようにした。具体的には、「正座」や「おじぎ」、「すり足」、「扇子の利用」、「所作(動き)」などを交えて、創作することとした。

句の表現内容について、本研究自身イメージを基に、言葉の時系列を中心に身体表現として創作を試みた。具体的には、山中を散策していると(歩く動作) 荒れ果てた庭園に古池があった(池をイメージする表現) その静かな古池に蛙が飛び込み(蛙の飛び込みを視線が追うような表現) その飛び込んだ音が響いている(耳を澄ましているような表現) というような情景を描写的に舞踊のパフォーマンスとして創作した。

創作した舞踊のパフォーマンスについては、正面から撮影し、データとして保存した。なお、結果の一部に関しては、Haikuに関連する国際学会で発表した(Hatano, 2021)。

(4) 「日本の伝統・文化」のオラリティ(身体性)のプログラム案

「日本の伝統・文化」のオラリティ(身体性)のプログラム案の作成を目指して、創作した舞踊のパフォーマンス(身体表現)のコンテンツが、プログラム案として可能か否かについて、教職経験者へインタビューを試みた。対象者は、いずれも教職経験30年以上の教員で、言語表現の観点から高等学校の国語教員、舞踊のパフォーマンスの観点から身体表現を得意とする小学校教員であった。「古池や」の句であることを伝えた上で、作成した舞踊のパフォーマンス(身体表現)の映像を提示し、自由に意見を述べてもらうこととした。

その結果、舞踊のパフォーマンス(身体表現)についての意見を概括すると、次のようである。「一般的な解釈に沿った仕草が美しく、情景描写的な振り付けが分かりやすい。『水の音』の後で思いにふける様もしみじみと風情がある。俳句を踊りで表す試みとしては、この句以外の作品への可能性も感じる。日本舞踊ならではの扇子の使い方が、効果的に思える。」

「日本の伝統・文化」である俳句は、17文字以外の説明のないメッセージ記号である。そぎ落とされた言語表現であり、その余白でイメージを伝えるメタファーの局地と捉えられる。また、舞踊のパフォーマンスも、非言語的な身体表現であり、身体でイメージを伝えるメタファーの局地と捉えられる。俳句も舞踊のパフォーマンスのいずれも、メタファーという概念で捉えられ、その相互作用として、「日本の伝統・文化」に関する理解がより深まると思われる。

以上のことから、「日本の伝統・文化」のオラリティ(身体性)のプログラム案のコンテンツとして、舞踊のパフォーマンス(身体表現)は妥当と考えた。なお、この結果の一部に関しては、国際学会(Hatano, 2023)で発表することができた。

(5) 最後に

このように、「日本の伝統・文化」の理解教育において、俳句という「言語」による文化教育素材に加えて、和文化的な動作を含む三次元的な「身体性」の要素を取り入れることで、異文化理解が深まる可能性を見出すことができた。今回は試行錯誤による初めての試みであったが、今後はさらに洗練された教育コンテンツに仕上げ、これまで未開拓であったオラリティ(身体性)を取り入れた国際理解教育モデルとなるよう、国際学会や教育ワークショップでの実施(エデュポート)などを通じて検証を重ねていきたい。

【付記】

本研究の応募時点(2019年)では想定されていなかった、新型コロナウイルス感染防止に関わる社会情勢や、最終年度に、本研究自身が新型コロナウイルス感染症に罹患し入院治療を行ったり、体調不良だったため、最終年度に、海外での教育ワークショップ(エデュポート)を断念せざるをえなかった。(したがって、その未使用の海外渡航旅費などの研究費は返納することとした。)

【主な文献】

- 長谷川 耀 (2005) 古池に蛙は飛びこんだか . 花神社 .
- 長谷川 岳 (2006) YOSAKOI ソーラン祭り : 異なる文化の融合から新しい文化を創造する (特集 音楽文化の変容). 音楽文化の創造 : cmc , 39 : 40-43 .
- 畑野 裕子 (2021) 「よさこい系および YOSAKOI ソーラン系の祭りや踊り」の研究動向に関する一考察 CiNii 掲載論文を中心に . ジュニアスポーツ教育学科紀要 , 8 : 35-44 .
- 畑野 裕子・大竹 留美・滝口 由美子 (2021) 身体表現の授業における道具の使用による野口体操の事例的検討 . 神戸親和女子大学大学院研究紀要 , 17 : 17-25 .
- Hatano, Y. (2020) A New Approach for Effective Demonstration of Noguchi Taiso by Using Tools in Creative Lesson at A Vocational School in Japan . The 2020 Yokohama Sport Conference .
- Hatano, Y. (2021) Physical Expression of Poetical Sentiments in Haiku . Haiku North America Virtual Conference 2021 .
- Hatano, Y. (2023) A New Approach to Creative Dance Performance inspired by Haiku, a Form of Traditional Japanese Poetry . The 2023 International Conference for the 43rd Japanese Society of Sport Education The 11th East Asian Alliance of Sport Pedagogy .
- 羽鳥 操 (2003) 野口体操入門 からだからのメッセージ . 岩波書店 .
- 平田 利矢子 (2010) YOSAKOI ソーラン祭りの研究--1999年・2009年の上位入賞チームにみる演舞構成 . 東京女子体育大学東京女子体育短期大学紀要 , 45 : 117-130 .
- 岩村 沢也 (2015) よさこい系および YOSAKOI ソーラン系踊りの身体技能的特徴の一考察 . 国際経営・文化研究 , 19-1 : 31-40 .
- Kuyama M. & Hatano, Y. (2020) Factors Affecting Continuation of Dance by Students Who Participated in the Yosakoi Festival in Japan . The 2020 Yokohama Sport Conference .
- 増山 尚美 (1999) YOSAKOI ソーラン祭りの拡大に関する一考察 . 北海道女子大学短期大学部研究紀要 , 36 : 121-130 .
- 松井 利彦 (1972) 解説・注釈 正岡子規集 : 日本近代文学大系 16 (俳諧大要) 角川書店 , Pp.232-233 .
- 松尾 千秋 (2006) 学校体育における日本の民俗舞踊の取り扱い―「南中ソーラン」に着目して― . 日本教科教育学会誌 , 29-2 : 1-9 .
- 三上 賀代 (1999) 野口体操からの展望 : その1 ほぐす . 日本体育学会大会号 , 50 : 757
- 溝邊 和成・他 (2014) 日本の伝統文化としての自然を表す言語を取り入れた和文融合型理科モデルの開発 . 科学研究費助成事業 (2012-04-01 - 2014-03-31) .
- 中西 淳 (2005) 俳句の指導法の開発 : コミュニケーション媒体の視点から . 国語科教育 , 58 : 82-89 .
- 中西 淳 (2014) 北米におけるハイクワークショップの有用性 : 国際交流を実りあるものとするために . 国語科教育 , 76 : 55-62 .
- 中西 淳 (2017) 感性の涵養とコミュニケーション能力育成のための実践的・国際的俳句指導の研究 . 科学研究費助成事業 (2014-04-01 ~ 2017-03-31) .
- 中西 淳 (2024) 中西 淳感性の涵養とコミュニケーション能力育成のための国際的俳句指導の探究 . 科学研究費助成事業 (2020-04-01 - 2024-03-31) .
- Noguchi Y. (1914) The Spirit of Japanese Poetry, London: John Murray, New York: E.P. Dutton and Company. p.45 .
(<https://ndlonline.ndl.go.jp/#!/detail/R300000001-I000006488551-00>)
- 雲英 末雄・佐藤 勝明 (2010) 芭蕉全句集 . (訳注) 角川学芸出版 , p.77 .
- 支考 (1686) 葛の松原 . 国会デジタル (<https://www.dl.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/950166>) , p.653 .
- 内田 忠賢 (2013) 現代祝祭のグローバルな展開 : YOSAKOI-SORAN ブラジル大会 . 人文地理学会大会 研究発表要旨 , 2013 : 96-97 .
- 内田 忠賢 (2018) 地域文化とは何か? - よさこい YOSAKOI 系イベントを事例に - . 人文地理学会大会 研究発表要旨 , 2018 : 70-71 .
- 矢島 妙子 (2015) 「よさこい系」祭りの都市民俗学 . 岩田書院 .

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 畑野裕子	4. 巻 8
2. 論文標題 「よさこい系および YOSAKOIソーラン系の祭りや踊り」の研究動向に関する一考察 CiNii掲載論文を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ジュニアスポーツ教育学科紀要	6. 最初と最後の頁 35-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 畑野裕子・大竹留美・滝口由美子	4. 巻 17
2. 論文標題 身体表現の授業における道具の使用による野口体操の事例的検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 神戸親和女子大学大学院研究紀要	6. 最初と最後の頁 17-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件/うち国際学会 4件）

1. 発表者名 Yuko Hatano
2. 発表標題 Physical Expression of Poetical Sentiments in Haiku
3. 学会等名 Haiku North America Virtual Conference 2021（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Motoko Kuyama, Yuko Hatano
2. 発表標題 Factors Affecting Continuation of Dance by Students Who Participated in the Yosakoi Festival in Japan
3. 学会等名 The 2020 Yokohama Sport Conference（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yuko Hatano
2. 発表標題 A New Approach for Effective Demonstration of Noguchi Taiso by Using Tools in Creative Lesson at A Vocational School in Japan
3. 学会等名 The 2020 Yokohama Sport Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yuko Hatano
2. 発表標題 A New Approach to Creative Dance Performance inspired by Haiku, a Form of Traditional Japanese Poetry
3. 学会等名 The 2023 International Conference for the 43rd Japanese Society of Sport Education The 11th East Asian Alliance of Sport Pedagogy (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------